

# JAL 愛媛原告を支える会



発行：JAL 不当解雇とたたかう愛媛原告を支える会  
連絡先：愛媛自治労連会館3F 愛媛労連内  
松山市三番町8-10-2 Tel 089-945-4526



2020. 1. 13

「JALは五輪前に165名の解雇争議を解決せよ」の懸垂幕をバックに

解雇された直後に生まれた原告のお子さんは小学生になり、自分では当時のままのつもりでも、過ぎ去った年月は無情にもさまざまに変化をもたらしてくれていきました。外見も体力もずいぶん厳しくなりましたが、当時の不当に解雇されたときのくやしき、腹立たし

う感じは、解雇された直後に生まれた原告のお子さんは小学生になり、自分では当時のままのつもりでも、過ぎ去った年月は無情にもさまざまに変化をもたらしてくれていきました。外見も体力もずいぶん厳しくなりましたが、当時の不当に解雇されたときのくやしき、腹立たし

## いかに自分の気持ちに正直に生きるか

JAL 不当解雇撤回争議団  
西予市在住

大池ひとみ

新年あけましておめでとうございませう。年内解決をめざしてがんばってききましたが、ついに10年目に突入してしまいました。毎年毎年「今年こそ」と思って気がついてきたら、ここまでできてしまったという感じです。解雇された直後に生まれた原告のお子さんは小学生になり、自分では当時のままのつもりでも、過ぎ去った年月は無情にもさまざまに変化をもたらしてくれていきました。外見も体力もずいぶん厳しくなりましたが、当時の不当に解雇されたときのくやしき、腹立たし

## 我が家の正月の屠蘇は「そら」の二人舞台で

松山市在住 山本 翠



私も  
応援します



我が家の元旦は、息子の家族など4世帯13人が一堂に会し、賑やかに新年の屠蘇を祝いました。各々の盃に満たされたのは、JAL 争議団支援の純米酒「そら」。ひとくさり争議団の闘いぶりを紹介しての乾杯となりました。甘くてキュッと来る喉越し。10年目に入る JAL の仲間の不当解雇撤回闘争。今年こそ、全国の仲間と甘くてキュッと来る勝利の乾杯を挙げたいと切に願う年明けです。

私はこれまで何回となく行ってきた海外旅行で JAL のお世話になってきました。特に、1987 年のニカラグワ訪問の長いフライトで、お世話になった客室乗務員の方が、腰痛に苦しみながら勤務しておられて、その

勤務条件の厳しさに怒りを覚えたことが忘れられません。

当時は、女性の職業の花形とされていた「スチュワーデス」。その後、日航のずさんな経営から数々の不祥事が報じられる度にあの時の乗務員のことが思い起こされ、不当な経営者と闘う仲間を心にかけてきました。そして、外国の飛行機に乗る度についてその乗務員のありようが目が行くようになりました。高いところへ手を伸ばしたり、重いものを扱う乗務員は男性が多いこと、決して客にへつらう姿がないことなど。

世界中の空を飛ぶ JAL のありようは、日本の姿そのものでもあると思います。その経営や運営に差別や人

権侵害、女性蔑視があるとしたら、それは日本の恥ともなりましょう。私自身長年、労働運動、女性運動に関わって生きてきて、人間の尊厳を守る闘いの清々しさも経験してきました。

今、JAL 争議団の方々の真摯で神々しくもある闘いの姿がまぶしくさえ見えます。今年が闘いの最後の年になることを願ってやみません。そして人権侵害にあっていることすら自覚させられず働かされている仲間の人権の覚醒になる闘いでもあると思っています。

全国の支援の仲間たちと勝利の乾杯を！

(裏面に続く)

意志半ばで力尽きた仲間、久保田純子さんが逝ってから今年の7月で8年が経ちます。

愛媛でもお世話になった尊敬する方々を何人も見送りました。そして、昨年9月、とても残念な訃報を受け取ったのでした。



「著名人が語る猫ラブ物語」

皆さんは、「一瞬の中の懲りない面々」という小説をご存知でしょうか？拳銃不法所持等で実刑判決を受け、4年間を府中刑務所で過ごした経験を描いた安部譲二さんの作品です。

安部さんは、実は私たちの先輩になります。1961年から4年間、日本航空の客室乗務員として世界を飛び回っていらつしやいました。安部さんは、中学時代から反社会的勢力の仲間入りをされ、本当に波乱万丈の人生を送られました。そのヒストリーは、安部さんのオフィシャルブログ「大人気ないオトナ」安部譲二くあんぼんたん日記」をご覧くださいればよくわかります。父親の仕事の関係で幼いころ（ちようど第二次世界大戦のさなか）、ヨーロッパで過ごされてきました。その後、日本に戻り麻布中学に入られたものの中退され、イギリスの学校に。そのあとの職業は多種多彩、作家になられたのはだいたいぶあとになってからのことです。

なぜわたし安部さんのことを書きとどめておきたかったかという、安部さんは無類の猫大好き人間だったからです。安部さんのことを悪く思う人も世の中にはいるかもしれませんが、彼の本を読む限り、猫に対する愛情は半端なく、これほどピュアな心を持った

人、思ったままのことをストレートに出される人、人生を思うように豪快に生きた人はこの先出てこないのではないかと思うほどです。

原告の仲間にも猫大好きな方がいらつしやいます。以前同じチームで仕事をしていた時期があり、本当にお世話になった大好きな先輩の一人です。

ある夏の夜、千葉のとある道路を走っていたら、猫が轢かれていのを発見。そのまま見過ごすことができず、車を脇に止め、見知らぬ家の人からスコップを借り、埋めてあげようと道端に穴を掘っている、パトカーがやってきて職務質問されたというエピソードの持ち主です。真つ暗な道路脇でタンクトップにショートパンツの若い女性が必死でスコップを持って穴を掘っていたら、事件だと思つちやいますよね。

動物をかわいがる人に悪い人はいません。



左側が「ウニ」

一番初めに支える会に投稿したとき、今住んでいる古民家と、後ろ姿の哀愁ただよう猫の写真を載せたことを覚えていらつしやる方はいらっしゃいますか？あの猫は、千葉の野良猫だったのを、別の猫好きの後輩から譲り受け、愛媛に連れて帰ってきた猫で名前はハニイ。今まで飼っていた猫が死んでさびしそうな父の相手をしてもらうためでした。でも、ハニイは父の膝に乗るのが大好きで、自由奔放、夜遊び大好き、すぐに妊娠し

て3匹の仔猫を産みました。その中で、器量も要領も一番悪く、これは貰い手がないだろうと諦めていた白い猫が、なんと、安部譲二さんのお宅へもらわれていったのです。

千葉の後輩が広く募集をかけてくれたところ、安部譲二さんの日本航空時代の同期の方が安部さんにその写真を見せ、「この猫がほしい」と即決されたというのです。

「ウニ」と名付けられたハニイの息子は、東京の家にもらわれていったその日から、3日3晩泣き続け、3日経ったあと、ぴたりと泣き止んでごはんがほしい、と言ったそうなんです。それ以来ウニは、立派に安部家の一員となり、安部ウニとして、テレビや雑誌やコマージュナルで元気な姿を見せてくれています。ハニイは6年前の春、猫エイズで天国に旅立ち、次はウニの番かなあと覚悟をしていたので、まさか、安部さんが先にお亡くなりになるとは夢にも思っていないでした。悲しみに沈んでいらつしやるママのそばで、ウニは安部家の長男として立派に役目を果たしてくれていると信じています。

人生、いつ何が起るかかわからない中で、いかに自分の気持ちに正直に生きるか、いかに思ったことを口にしてそれを実行するか、それと合わせて、相手に寄り添い、いかに愛と感謝の気持ちを持って接せられるか、それを安部さんから教わったような気がします。大酒飲みみの安部さんが、最後に奥様に言った言葉が「ジュースが飲みたい」だったことを知り、なんとお茶目な方だろうと。そういう人生、素敵です。

この先、どういう結末が待っているかわかりませんが、悔いなく精いっぱいやった、と言い切れる闘いを今後も続けていきます。

皆様のお力を背に受けて、きつと今年こそ、解決を！！